

正親校だより

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/seishin-s/>



令和8年 7月 17日

第5号【夏休み直前号】

京都市立正親小学校

校長 長谷川 英司

Eメール:seishin-s@edu.city.kyoto.jp

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！



1学期にできるようになったこと

いつもより早く梅雨が明け、今年も暑い夏がやってきました。1学期、子どもたちは多くの学びと体験を積み重ね、大きく成長することができました。子どもたちが1学期にできるようになったことを振り返ってみます。

1年生は入学からすぐに小学校生活に慣れ、朝顔の成長を見守りながら友達と関わり合い、正親校の一員になりました。2年生は学習や生活の中で、自分で考えて行動する場面が増え、休み時間にはみんなで元気に外遊びする姿から、なかま意識の芽生えが見られました。3年生は社会科、理科、総合的な学習の時間を通して、身近な自然や地域を探究する様子が見られ、なかまと協力して学ぶ楽しさに気づいたようでした。4年生はカイコの一生を見守りながら、様々な課題を仲間ととことん話し合い、協力してよりよい解決方法を見つけ出し、なかまを大切に作る心に気づきました。5年生は山の家で仲間と協力しながら生活する力や責任感を育み、委員会活動を通して高学年として学校を支えるための行動がとれるようになりました。6年生は持ち前の明るさとやる気で学校全体を支え、特に1年生に親切に関わるリーダーとしての責任感を発揮してくれました。修学旅行では小学校生活最大の思い出が作れたことでしょう。学年ごとの姿だけでなく、全校児童がたてわり遠足やたてわり遊びなどを通して、学年を超えて支え合う姿も数多く見られ、正親小学校らしい温かな人間関係が育まれた1学期でした。



このような子どもたちの成長は、子どもたち自身の努力はもちろん、学校運営協議会やPTAをはじめ、家庭や地域の皆様の支えがあってこそのもです。子どもの居場所づくりにも大きくご尽力いただきました。放課後のサッカー教室の開設をはじめ、部活動のお手伝い、たてわり遠足やまち探検の見守りなどに多くの保護者の皆さんがボランティアとしてご協力をいただきました。学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを見守り育てる「チーム正親」の力を改めて実感しています。私たち教職員もチーム担任制を生かしながら、すべての教職員が全校児童を見守る体制を充実させていきます。

夏休みは、家庭や地域での体験を通して大きく成長できる機会です。読書や自由研究、新しいことへの挑戦、人とのつながりを大切にしながら、充実した夏休みを過ごしてほしいと願っています。そして、一回り成長した子どもたちと2学期の始業式で元気に再会できることを楽しみにしています。

校長 長谷川 英司



